## と連携 対策の取組

熊本森林管理署と関係者による協定調印式

5倍以上となっています。

適正頭数とされる約4.

7万頭の

また生息頭数は、27万頭以上と言わ 25年で1.5倍以上に拡大しました。 息域は、 しており、

1978年から2003年の

近年、

全国的にシカの生息域が拡大

九州においては、シカの生

シカの生息状況と被害への対応

天然林にも及んでおり、林内の低木・ います。 材価値の低下といった被害が発生して 関係では、 農林業被害が深刻化しています。林業 生息域の拡大等に伴い、 その被害は人工林のみならず 食害により苗木の枯死や木 シカによる

日本の

の点からも問題となっています。 見られ、生物多様性や国土の保全 ら取組の概要を紹介します。 を推進しています。今回は、 重点課題と位置づけ、様々な取組 る林業被害と森林環境への悪影響 拡大しています。また、シカの食 加及び生息域の拡大を背景として、 下、「シカ」という。)の生息数の増 に対処するため、シカ被害対策を 害により、森林が劣化する場合も シカによる農林業への被害が年々 九州森林管理局では、シカによ 九州では、近年、ニホンジカ(以

死などの被害が発生しています(写真 草本類などの消失や、 中・上層木の枯

2, 3)°

います。 の観点からも大きな問題となってきて 出等の危険性も高まるなど、国土保全 被害による森林の劣化により、土砂流 植物の単純化など、生物多様性の保全 態系が残る地域においても、生育する に影響が生じています。また、これら その結果、屋久島のような貴重な生

解消のためには「個体数管理」が重要と 必要です。特に、シカ被害の抜本的な 帯の整備等の「生息環境管理」を組み合 柵等の設置を行う「被害の防除」、 には、 このようなシカ被害へ対応するため 捕獲による「個体数管理」、 総合的な対策を推進することが 緩衝 防護



シカによる樹皮の食害

シカ被害により荒れた森林

## 段技術の開発・普及

巾着式あみはこわな

ンターでは、新たな捕獲猟具である、 九州森林管理局の森林技術・支援セ なっています。

じて行われてきましたが、近年、 むことが求められます。 行政区界等にまたがって生息している ります。また、シカは、 効率的な捕獲方法を開発する必要があ 者の減少・高齢化が進んでおり、 ため、関係者が連携して対策に取り組 従来シカの個体数管理は、狩猟を诵 農地と森林 より

取り組んでいます。 地域関係者と連携した対策に重点的に では、新たな捕獲技術の開発・普及や こうしたことから、九州森林管理局

# 巾着式あみはこわなに近づくシカ

取り組んでいます(写真4)。 「巾着式あみはこわな」の開発・ 普及に

が容易という特徴があります。 と安価で、軽い(重さ約5㎏)ため設置 を再利用することによって、約5千円 式あみはこわな」は、獣害防止ネット みとなっています。従来の鋼鉄製のわ 置場所が限られるのに対して、「巾着 なは、約10万円と高価な上、重たく設 網が落ちてシカの動きを制御する仕組 けで入り口が巾着状に閉まり、 このわなは、シカが入るとバネ仕掛 同時に

年度から25年度にかけて、38会場延べ な」の普及に取り組んでおり、平成24 会・農林業関係者に対し、説明会を開 ンターでは、「巾着式あみはこわ 500人の県・市町村・猟友 意見交換を行っています。

改良を行うこととしています。 や関係者の意見等を踏まえ、 わな」の活用を進めており、 シカの捕獲において「巾着式あみはこ 九州森林管理局では、 国有林内での 引き続き その結果

場に、 に向けて、大分県内の国有林におい は、この手法について、 課題です(写真5)。九州森林管理局で 源が多く、いかにシカを誘引するかが げていますが、 州の一部で取り組まれ、 する銃猟のことであり、 引狙撃法」の実証にも取り組んでいま 試行的な捕獲に取り組んでいま 「誘引狙撃法」とは、 力の新たな捕獲技法として、「誘 給餌によりシカを誘引して狙撃 九州では、冬でも餌資 九州での実用 高い成果をあ 餌の少ない冬 北海道や本

組んでいます。

ため、広域での関係者間の連携に取り

引については一定の成果がでていま こととしています。 地域に応じた効率的な手法を検討する います。 確認できなくなるなど、課題も生じて 誘引期間中の雪のため、 平成25年度は8箇所に増えるなど、誘 箇所が10箇所中2箇所だったものが、 その結果、 しかし、捕獲時に警戒されたり、 今後、現状を的確に分析し、 平成2年度に誘引できた シカの出現が



給餌により誘引されたシカ

## 地域の関係者と連携した 理の取組

### をまたいだ対策を推進する必要がある シカは広域的に生息しており、 森林・林業関係者と連携した取組 地域

児島の各県と連携し、「九州シカ広域 獲を行うものです。国有林では、一斉 設定し、各県ごとでは対応の難しい 秋と春に一斉捕獲期間と一斉捕獲日を ており、平成25年度秋期の一斉捕獲日 林禁止区域を設けないなどの対応をし 捕獲日には林道のゲートを開放し、入 県境などにおいて、集中的にシカの捕 (3日間)を含む一斉捕獲期間(15日間) 斉捕獲」を推進しています。これは 特に、福岡、熊本、 1,538頭が捕獲されました。 大分、宮崎、 鹿

携した取り組みを行っています(写真 素化やわなの貸し出し等、 を締結し、国有林への入林手続きの簡 村・猟友会等と被害対策のための協定 屋久島の各森林管理署では、 また、熊本、宮崎北部、 鹿児島及び 地域と連 地元市町

# 九州農政局等と連携した取組

とでは限界があるため、 地のそれぞれで、 餌場として行き来しており、 森林をねぐらとし、 個別に対策を行うこ 森林と農地の 森林と農 農地を

> ります 関係者が密接に連携していく必要があ

を行っています(**写真6)**。 要望等を把握し、課題や対応策の検討 広域協議会等とともに、地域の実態・ 設定し、地元の農林業関係者からなる 町・竹田市・高千穂町をモデル地域に 本県・大分県・宮崎県にまたがる高森 九州農政局と連携し、

証に取り組む予定です。 害を防止するための新技術の導入・実 定の締結や、モデル地域において、 た。今後は、シカ被害対策のための協 紹介や、合同現地調査等を行いまし いて、森林管理署等による捕獲技術の これまで、広域協議会の検討会にお 被



九州農政局等との合同現地調査

## おわりに

力被害対策を推進してまいります。 後とも地域との連携を一層強化してシ 様々な取り組みを行っていますが、 今回紹介しました取り組み以外にも 今